

## AIディスカッションペーパー(第1.0版)の公表について

---

2025年5月14日



背景

## 生成AIの加速度的な性能向上等

- ・ 社会に広範に実装される段階に到達しつつあり、国民生活の向上等に大きく寄与する可能性
  - ・ 一方で、生成AIを悪用した犯罪や偽・誤情報の拡散などのリスクを社会全体で強く意識
- ➡ 金融分野においても活用の検討が進展する一方で、リスクや規制面から利活用に躊躇する声も

問題意識

AIは将来的には金融業務を支える中核的な技術の一つとして、**金融サービスの提供の在り方や金融機関等のビジネスモデルを抜本的に変革しうるものとなる可能性**

- ・ 金融機関等は、技術革新に取り残されて中長期的に良質な金融サービスの提供が困難になる「**チャレンジしないリスク**」を強く意識すべき局面。

政策対応

## 金融庁として健全なAI活用に向けた取組みを力強く後押し

- ・ 規制の適用関係の明確化等を通じてセーフハーバーを提供
- ・ 金融機関等との対話等を通じた中長期的な政策等の検討に資するものとして、本文書を策定

# 金融機関等における生成AIの主なユースケース

## ① 社内利用(業務効率化等)

- 文書要約／翻訳
- 文書等の構成・添削・評価
- 情報検索(社内FAQ等)
- システム開発／テスト  
(非自然言語領域)

## ② 対顧客サービスへの間接的な利用

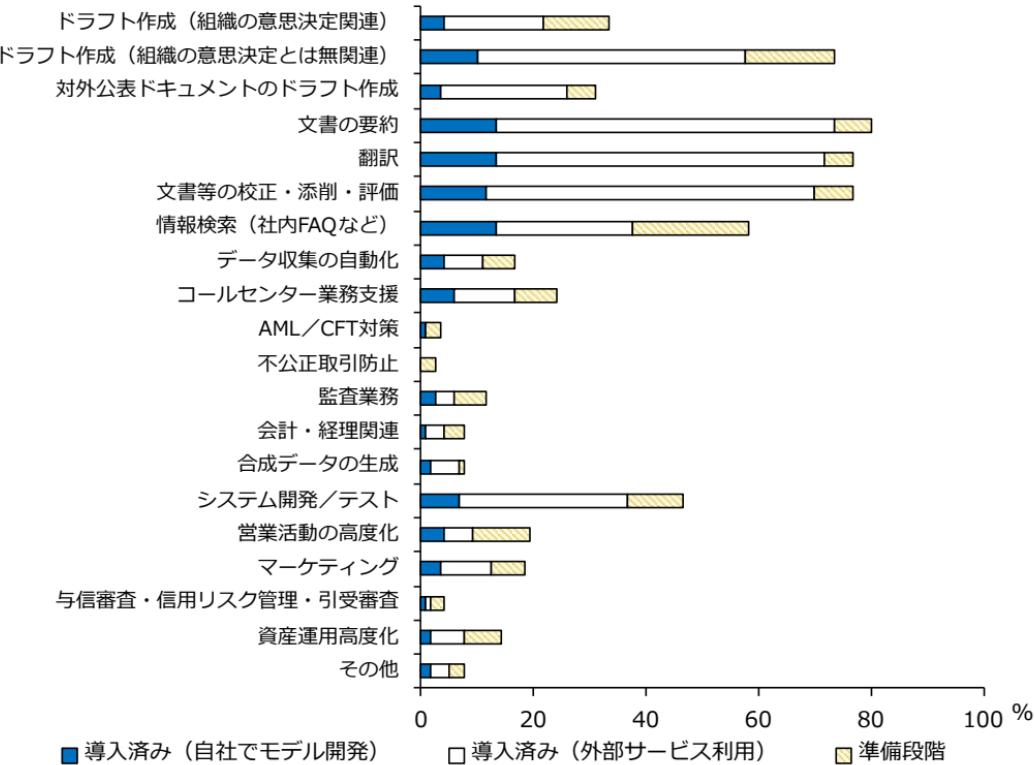
- コールセンター業務支援
- ドラフト作成(稟議書等)
- 対外公表文書ドラフト

## ③ 対顧客サービスへの直接利用

(現状では極めて限定的)

- 文書要約など汎用生成AIの導入は進展
- 発展的な活用は導入途上

[生成AIのユースケース毎の導入状況]



## ① 従来型AIと生成AIで共通の課題

- ・ データ整備
- ・ 外部事業者との連携とサードパーティ・リスク管理
- ・ 投資対効果

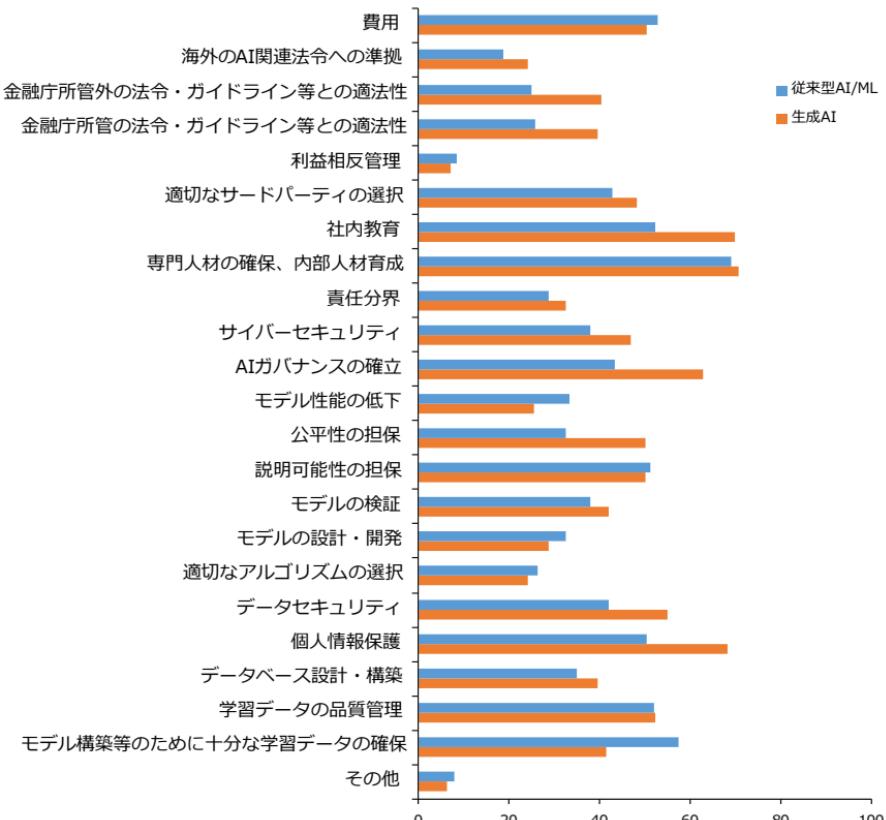
## ② 生成AIにより難化した課題

- ・ 説明可能性の担保
- ・ 公平性・バイアス
- ・ AIシステムの開発・運用及びモデル・リスク管理
- ・ 個人情報保護
- ・ 情報セキュリティ・サイバーセキュリティ
- ・ 専門人材の確保・育成及び社内教育

## ③ 生成AIがもたらした新たな課題

- ・ ハルシネーション(幻覚)
- ・ 生成AIの金融犯罪への悪用
- ・ その他の金融システム安定上の論点

[AIの検討・導入・利用時の課題]



## 官民ステークホルダー勉強会

2025年3月

2025年 6～12月頃

2026年3月

AIディスカッションペーパー(第1.0版)公表

Japan Fintech Week 2025

本文書更新

Japan Fintech Week 2026

国内  
対応

随時の照会・相談受付(FinTechサポートデスク・実証実験ハブ等)  
本文書の各論点につきモニタリング及び環境整備に向けた対応(指針等の見直し含む)

国際的  
な対応

国際的な議論への貢献(FSB、IOSCO、BCBS、IFIAR等)、各国当局との対話  
情報収集及び意見発信(フィンテック・カンファレンス参加等)